

## 【最優秀賞】



氏名 王 珊珊  
(オウ サンサン)

国・地域 中国 

在日期間 1年1ヶ月

学 校 鹿児島大学

### タイトル : おばさん

皆さん、こんにちは。もし、海外で急に知らない人に、「国へ帰りなさい」と言われたら、皆さんはどうされますか。

四年前の2016年、私は北京の北方工業大学で日本語を勉強し、留学生に選ばれて、東京八王子での一人暮らしを始めました。初めての海外での一人暮らしです。わくわくしますよね。そんな気持ちで、すぐに八百屋さんのバイトも見つかりました。バイトの初日に、エプロンを付けて、名札を付けて、レジの前に立ちました。ある初老の女性のお客さんが入ってきて、私の名札を見て、こう言いました。「あなたたち中国人はお金のために日本に来たのでしょうか。中国は戦争に負けたのでしょうか。あなたたちは日本にいる資格はありません。日本語分かります。もうさっさと中国に帰りなさいよ。」このお客さんがちょっと変な人だなと思って、ただニコニコしていました。すると、相手は「笑いごとではありません。もうこの店には二度と来ません。」と大きな声で言いながら店から出てしまいました。それ以来、同世代以外の日本人と話すのが、少し怖くなりました。

あっという間に十ヶ月が過ぎ、私は中国に帰りました。推薦入学で中国の吉林省の大学院に進学しました。吉林省は北京からの直線距離は約千キロです。鹿児島中央駅から東京駅の直線距離も約千キロ、それと大体同じぐらいの距離です。どうしてわざわざ大都市の北京からそんなに遠い所に行くのかって思うでしょう。それは、憧れの先生がいりっしゃったからです。私の指導教員の先生は学識のある方で、鹿児島に住んだ経験のある、優しい中国人のおばさんです。以前日本で経験したことがトラウマとなり、もう一度留学するつもりは全然ありませんでしたが、尊敬する先生が「鹿児島はいい所ですよ。留学に行ってください。」とおっしゃっていたので、鹿児島に来ました。

実は鹿児島に来てから、バイトを始めました。時給800円、人と話さない、ホテルの清掃員です。しかし、同僚は皆60才以上。昔の嫌な気持ちがよみがえりました。私の教育係は七十代のAさんです。小柄で鹿児島弁ばかり話します。私はお金のためと思って、働き始めました。

ある日、Aさんが「若い子にはお菓子がいるのでしょうか。おばちゃん一個、他は王ち

ゃんに。」とお菓子をくれました。後から、そのお菓子がお客さんが残したものだとして、びっくりしましたが、いつももらってるので、私もお土産を買うようになりました。「これは霧島のお土産です。」と言いながら、Aさんにあげたら、Aさんが「はい。ありがとう。これはニシムタのお土産です。」と言いながら、私にくれました。Aさんからお菓子をもらっているうちに、おばさんへの嫌悪感がだんだん薄れていったような気がしました。

またある日、一緒に弁当を食べている時に、Aさんが突然、小さな声でこう言いました。「王ちゃん、お父さん給料いくら。」私が正直に答えたら、今度は「お母さん給料いくら。」と聞かれました。お金の話は嫌いではありませんが、突然聞かれてびっくりしました。しかし同時に、何か自然に、Aさんとの距離が近くなったような気がして、嬉しかったのです。

Aさんのようなおばさんは、鹿児島にはたくさんいます。鹿児島のおばさんたちのお陰で、私は「日本が大好き」とはまだ言えないのですが、日本への印象が確かに少しずつ良くなって来ました。そういえば、私の留学生活は、おばさんで始まって、まだ終わっていないのですが、おばさんで終わるかもしれません。

そして、私もいつかおばさんになります。私がおばさんになったら、次の三つのことを遂行したいと思います。一つ、皆にお菓子を配ること。二つ、人の給料は聞かないこと。三つ、外国の文化を理解していなくても、外国政府のやり方に疑問を持っていても、外国人の子を差別しないで、普通に接すること。人を良い気分にするおばさんになれるように、頑張りたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。